

JAグループ神奈川TAC・担い手担当者パワーアップ大会 優良事例共有でTAC活動充実へ

農産総合課は2月12日、「JAグループ神奈川TAC・担い手担当者パワーアップ大会」を厚木市内のホテルで開いた。本大会は、日々の訪問活動の中から担い手の課題解決につながる実践事例の共有や、交流による担当者の相互研鑽を通じて、出向く活動のさらなるレベルアップを図ることを目的としている。JAや連合会などから約130人の役職員、TAC担当者が出席した。

発表では、県内JAより選ばれたTAC・担い手担当者8人が登壇した。「担い手の意見要望に対するTACの取り組みと今後の展望」をテーマに、それぞれ訪問活動によって気づいた課題、解決策を模索する過程とその成果を伝えた。審査の結果、「多摩川梨の新しいPR方法を探して！！～B品の“価値”ある活用によるブランド力の向上～」を発表したJAセレサ川崎・路川祐也さん、「TACで実現！新規品目の共販出荷と農福連携」を発表したJA湘南・鈴木駿平さん、「ピンチはチャンス！秦野発・青パパイヤの挑戦～普及・販売促進に向けた取り組み～」を発表したJAはだの・尾澤陽一郎さんの3人が、最高賞であるTAC表彰に輝いた。

審査を務めたJA神奈川県中央会の中村睦農業くらし対策部長は、「いずれの内容も生産者との対話、訪問活動の中から地域の課題と農業情勢を的確にとらえて

いた。そして、関係組織と連携し、克服するために何ができるかを考えて提案している素晴らしいものだった。今後も自信と誇りをもって、引き続きTAC活動を盛り上げてほしい」と講評した。平本光男運営委員会会長は「日本は農業振興、食料安全保障の観点において重要な局面を迎えている。皆さまの知識や技術が、地域農業の発展や持続可能な農業、環境保全に大きく貢献することを期待している」と呼びかけた。



(前列左から) 岸山毅部長、中央会・中村睦部長、JAはだの・尾澤陽一郎さん、JAセレサ川崎・路川祐也さん、JA湘南・鈴木駿平さん、根倉修県本部長、細野典之副本部長、真壁勇男副本部長
(後列左から) JAあつぎ・今直樹さん、JAよこすか葉山・青木梨紗さん、JAかながわ西湘・奥津宏介さん、JA横浜・千種一生さん、JAさがみ・古谷友弥さん

生産者と交流深める 県産魅力の発信強化 かながわブランドコンダクター交流会

かながわブランド振興協議会は3月6日、かながわブランドコンダクターと生産者の交流会を行った。同協議会は、優位性を保つための要件を満たした県産農林水産物ならびにその加工品を「かながわブランド」として登録する制度を運営している。

かながわブランドコンダクターは、県内在住の野菜ソムリエや料理専門家などから構成され、同ブランドのホームページやSNS、料理教室などを通じて、かながわブランド登録品をはじめとする県産品PR活動を行っている。

当日は10人のコンダクターが参加し、小田原市で刺網漁を営む江森正典氏を訪ねた。江森氏から刺網漁と「小田原あんこう」について説明があったのち、妻の真奈氏があんこうのさばき方を部位ごとに実演説明。実

際にあんこうをさばく体験をした。参加者は「めったにできない体験ができた」と話し、生産者と積極的に意見を交わした。交流を通じて、かながわブランド登録品等を生産する生産者の思いや苦勞、こだわりなどを認識し、コンダクターとしての知見を広げた。

そのほか、小田原市漁業協同組合水産加工施設、神奈川県水産技術センター相模湾試験場の視察も行った。同協議会は今後も県内産農林水産物の普及PR・消費拡大に取り組んでいく。



小田原あんこうをさばく参加者

令和6年度柑橘安定経営研修会並びに キウイフルーツ園管理共進会褒賞授与式

農産総合課は3月13日、「令和6年度柑橘安定経営研修会並びにキウイフルーツ園管理共進会褒賞授与式」をJAかながわ西湘本店で開催した。本研修会は、県内の柑橘生産者の安定経営に向けた情報交換の場として同課が毎年開催しているもので、生産者、JA職員、関係機関など50人が参加した。

研修会では、JA広島果実連株式会社の及川正明課長が「レモンの生産振興、販売について」と題し講演。県農業技術センター足柄地区事務所が「ドローンを用いたカンキツ園の防除について」「ミカンハダニの防除について」をテーマに情報提供を行った。

同日実施した令和6年度キウイフルーツ園管理共進

会褒賞授与式では、尾澤健一さん（JAはだの）が神奈川県知事賞を受賞した。

JA全農かながわの真壁勇男副本部長は「生産資材価格の高止まりなどが農業経営に大きな負担となっている。全農として、ポスターや動画を用いて農産物の適正な価格形成への理解醸成を進めていきたい」と強調した。



神奈川県知事賞を受賞した尾澤さん

生産コスト高騰 生産・販売連携で苦境に立ち向かう やまゆり牛勉強会

JA全農かながわは、2月3日「令和6年度第2回やまゆり牛勉強会」を(株)神奈川県食肉センターで開催した。やまゆり牛生産者3人のほか、JA全農くみあい飼料(株)、JA全農ミートフーズ(株)が参加した。

当日は、(公社)日本食肉格付協会の本館勇輝所長による枝肉格付の講評、JA全農ミートフーズ(株)が販売の品質講評を行ったのち、藤沢市の湘南ファーム宮原牧場で牛舎の見学を行った。

やまゆり牛生産者協議会の桜井堯浩会長は「生産現場では、生産資材の高騰で厳しい状況が続いているが、なかなか販売価格に反映されない現状がある。販売強化にご協力いただきたい」と呼びかけた。やまゆり牛



講評を行う本館所長

湘南ファーム宮原牧場の肉牛

生産者協議会は、JA全農かながわが事務局を務めており、生産技術の向上と安定生産を目的に、会議や勉強会、先進事例の視察を行っている。やまゆり牛は、県が認定する「かながわブランド」に登録されている。

食肉販売所の古屋大所長は「生産と販売の連携を強化し、難局を乗り越えたい。地産地消を求める声も多いため、地域や消費者を巻き込みながら、販売価格に生産コストを反映できるよう尽力したい」と今後の展望を語った。

「ゆるふわたいむ」で湘南ゴールドPR！ 秋元真夏さんが県産品の魅力伝える

JA全農かながわは、JA全農が運営する産地直送通販サイト「JAタウン」のショップ「JA全農かながわ」の商品紹介の一環として、YouTube番組「ゆるふわたいむ」で県産農畜産物のPRを実施した。動画は1月下旬よりYouTube上で公開されている。

撮影では、湯河原町の圃場にてJAタウンオフィシャルサポーターの秋元真夏さんが、湘南ゴールド生産者の榎本昌之さんに教わりながら収穫体験。収穫後、初め

て湘南ゴールドを食べた秋元さんは「酸味もあるが、ジューシーでおいしい」と感想を語った。

その後秋元さんは、やまゆりポークや県産野菜を使用したカレーを作り、榎本さんに振る舞った。また、JAかながわ西湘農産物直売所「朝ドレファ〜ミヅ成田店」では、県産農畜産物や加工品を購入し、購入品を視聴者にPRした。



榎本さんに教わりながら収穫体験をする秋元さん